
岐阜県立加茂農林高等学校

学 校 長 村 井 真
学 校 住 所 美濃加茂市本郷町 3 - 3 - 1 3 電 話 0574-26-1238

- 1 会議の名称 岐阜県立加茂農林高等学校 学校評議員による会議 (第2回)
- 2 会議の構成
- | | | |
|-----|------------|-------------|
| 委 員 | 生駒 一成 (欠席) | 岐阜県指導農業士 |
| | 桂川 直人 | 岐阜県農業大学校長 |
| | 平井 靖司 (欠席) | 地方公務員 |
| | 福田 文代 | ボランティア団体副会長 |
| | 渡辺 祥二 | 農業生産法人代表 |
| | 渡辺 高士 | P T A会長 |
- 学校側
- | | | | |
|-------|---------|-------|------------|
| 村井 真 | 校長 | 齋藤 寧子 | 教諭(教務主任) |
| 瀬瀬 斗一 | 教頭 | 岩永 英夫 | 教諭(生徒指導主事) |
| 岩井のり子 | 事務部長 | 澤野 美彦 | 教諭(進路指導主事) |
| 八束 功子 | 教諭(農場長) | | |
- 3 会議の目的 学校運営について地域住民等から幅広く意見を聴き、地域社会からの支援・協力を得て、開かれた学校づくりを推進する。
- 4 会議の開催 令和2年1月21日(火) 13:30~15:30
委員3人、P T A会長及び学校職員7名が出席
- 5 会議の概要
- 1 本校生徒との意見交換会
 - 2 学校評議員による会議
 - (1) 学校長あいさつ
 - (2) 生徒及び保護者等を対象とするアンケート結果について
 - (3) 学校関係者評価、学校への意見・要望等
 - (4) その他

テーマ 生徒との意見交換会

農業クラブ代表の司会により、生徒会役員代表、各学科の代表及び主な部活動の代表の生徒と学校評議員及びP T A会長との意見交換会を行った。

生徒達から、今年度頑張ったことや成果、卒業を迎える心境、卒業後の進路、学校や後輩への思いや要望などが話され、それを受けて、学校評議員等から感想・質問・意見を聞いた。主な意見等をまとめると以下のとおりである。

<生徒会・農業クラブ活動>

委員 生徒会活動についてはどう捉えているか。また一番苦労した行事は何か。

生徒 いろいろな意見や生徒の願いを生徒会役員で、どう改善するか等、話し合うことが大切だと考えている。体育大会や緑園祭をどのように楽しんでもらえるか企画するのが大変だった。

委員 瓢箪イルミネーションの取り組みは他の学校とどう役割分担をしているのか。

生徒 会議で各校が集まり、役割を決めている。瓢箪は全農業高校で作っている。

<各学科の取組>

委員 加茂農林は GAP 取得を行ったようだが、取得後に変わったことは何かあるか。

生徒 作業の安全に気を付けるようになった。GAP は作る人の安全も大切にしており、チェック項目を守って作業したり、清潔を保つことを考えるようになった。

委員 IT 化が農業や企業でも叫ばれているが、今後人とのつきあいなどが省かれていく世の中になっていくと考えられる。今後コミュニケーションについてどう思うか。

生徒A 課題研究で、多人数で1つのことを成し遂げていく中で、コミュニケーションは大切であると感じた。

生徒B 自分が選んだ造園は IT 化が発展していないが、伝統のある技術には素晴らしいものがありそれは人から人へ、次の世代に引き継いでいくべきものであると考えている。

<部活動の取組>

委員 どの部活動も頑張っている。来年度も後輩が引き継いで頑張っていってほしい。教員の働き方改革が進んできているが、生徒の立場で感じていることを教えてほしい。

生徒C 部活動の休みは他校よりもしっかりとれていると思う。どの部も18:30には終わっており、終了時間もきちんと守られているので良いと思う。

生徒D 実習では動植物の命を扱っている。朝夕の管理や盆や正月もなく先生方は管理されているが、休日の外部委託によって改善されてきているように見える。

テーマ 学校関係者評価、学校への意見・要望等

校長の挨拶と近況報告、生徒及び保護者等を対象に行ったアンケートの分析報告、各分掌長から今年度の成果と課題を交えて、学校評議員等から感想・質問・意見を聞いた。主な意見等をまとめると以下のとおりである。

<学習に関して>

委員 「習熟度別、少人数の授業があり、理解につながっている」について「わからない」「当てはまらない」が微増している。また、学習環境の改善をどこまで生徒が望んでいるか。それが時代の要請とマッチしているかどうか見てほしい。

学校 ICT 化は、県の今年度の大きな柱であった。中学校の環境に高校が追いついた形である。今後は子供たちにとって当たり前のツール、身近なものとして定着を目指す。

<生徒指導に関して>

委員 農業高校出身の生徒は良く挨拶をしてくれる。また、私の勤務している農業大学校にはドレスコードはないが、発表会などで自粛を促すと従ってくれる。常識のある生徒が多い。校則は高校生の中から変えてほしいという声がでなければ、問題ないのではないか。

委員 学校に来なくなる生徒（不登校）について、すべてを理解することは難しい、課題研究などで意思表示の練習ができているのではないか。

<進路指導に関して>

委員 社会では来年から不景気になるといわれているので、今年就職を考えた生徒が多くなったのではないか。学習内容は会話のネタになることが多く、進路に関してもコミュニケーションがとりやすい。コミュニケーション力が育つ校風が表れているのではないかと感じる。

<ふるさと教育（担い手育成総合戦略事業）に関して>

委員 ふるさと教育という言葉は聞くが、学校の取り組みでどのようなものか理解できた。市の街づくり協議会などとも連携しているのか。

学校 協議委員に市役所の方も入っている。

6 会議のまとめ

意見交換会では、多くの励ましの言葉を頂くことができた。今後も生徒の活躍する場面を増やし充実した学校生活を送れるよう指導していきたい。評議員の皆さんはもとより広く地域住民に対し、学校や生徒の姿を示し、ご意見に耳を傾けて、学校のさらなる改善に努めていきたい。